

独自のフットケアシステムの活用と透析患者のリスク評価の実態

医療法人社団 石川記念会 板橋石川クリニック

五月女純子 千葉真紀子 坂本章代 広重智子 田辺敬子

はじめに

当施設では、独自のフットケアシステムを構築し、患者のリスクに合わせ、定期的にフットチェックを実施している。このフットケアシステムを活用して1年が経ち、当施設の透析患者のもつ足病変リスクの実態を調査した。

今回、リスク評価の結果を分析することで、外来透析施設での継続したフットチェックの必要性とケアの方向性、さらにフットケアシステムの改善点が明らかになったので報告する。

研究方法

当施設透析患者 44 名（男性 30 名、女性 14 名）を対象に、独自のフットケアシステムを活用しフットチェックを実施。足病変のリスクを総合的に評価したのち、症状ごとに分析した。

結果・考察

当施設では、患者全員を対象に、定期的に継続したフットケアを実施するため、オリジナルのチェックシートを使用しリスク評価を取り入れたフットチェックを行っている。看護師間での判断のズレから生じる、アセスメントやケアの差をなくすため、チェックシートに合わせたオリジナルのフローチャート（図 1）を作成し、リスク評価に合わせたケアの統一を図った。このフローチャートは、症状の項目ごとに分けられ、それぞれ付随する情報を含め関連図様に整理されおり、患者の状態に沿って当てはめていくことで、症状やリスクにあったケアが導き出せるようになっている。さらに、フローチャートを使用した結果を PC に入力することで、症状ごとのリスク評価、アセスメントとケアプラン、総合的なリスク評価を自動的に導き出せるシステムとした。（図 2）

このように独自のフットケアシステムを活用しケアを続けた結果、総合的なリスク評価では、リスク 3 は全体の 33% で、そのうちの 81% は 65 歳以上の患者が占めていた。また、65 歳以上の患者でみると 59% はリスク 3 に該当している。

次に、症状の項目別にみると、爪白癬や肥厚・変形といった爪病変、皮膚の乾燥や白癬、循環障害の項目に該当が多くみられた。（図 3）爪病変や皮膚の乾燥のリスクが上昇する原因には、高齢化に伴う身体的能力やセルフケア能力の低下が考えられる。例として三つあげると、まず一つ目に、ひとり暮らしで通院や日常生活に介助が必要であり、皮膚科や循環器科への受診に対し消極的なこと、二つ目に、自己では身体の清潔保持が困難であり白癬を伴ってしまうこと、

三つ目に、視力の低下により、見えないまま爪切りをすることで指を傷つけてしまうこと、などがある。こういった患者の背景が、足病変のリスクを高めており、特に足先の爪切りなど緻密性が要求される作業を困難にさせている。

また、循環障害のリスク上昇は、透析患者が血管内の石灰化により心血管疾患のリスクが高いことが原因と考えられる。循環障害のリスクが1以上の患者は44名中18名の41%、そのうち、DM患者は56%、非DM患者は44%であった。このことから、フットチェックはDM患者だけでなく、透析患者全員を対象に実施する必要性を再確認できた。

そして、このフットケアシステムを取り入れてから、病変を早期に発見し、他科への受診または治療をした患者は、以前よりも増加している。主に皮膚科への受診は、主に白癬の治療、肥厚や変形した爪のケア。循環器科へは、ABIの測定や下肢血管カテーテル検査または拡張術。透析室では、血管拡張薬の使用などがあった。(図4)外来透析患者の週3回来院するという特性を活かし、看護師によるチェックやケアだけでなく、透析室での血管拡張薬の投与や、他科受診をすすめるなど、医師や他科との連携を深め、治療に対しても積極的に関わっていくことが、更なる足病変のリスク軽減に繋がっていると考ええる。

今後の課題として、患者ひとりひとりのセルフケア能力をどのように判断・評価していけばよいかを検討し、セルフケア能力を含めた個別性のあるリスク評価・ケアが行えるようシステムを見直していきたい。また、さらに患者が足に関心がもてるよう、指導内容や方法を検討しすすめていきたいと考える。

結論

- ① 透析患者はハイリスクであり、外来透析室でも継続したフットケアが必要である。
- ② 患者のセルフケア能力を評価する必要がある。
- ③ フットケアシステムを改善し、より援助を充実させる必要がある。

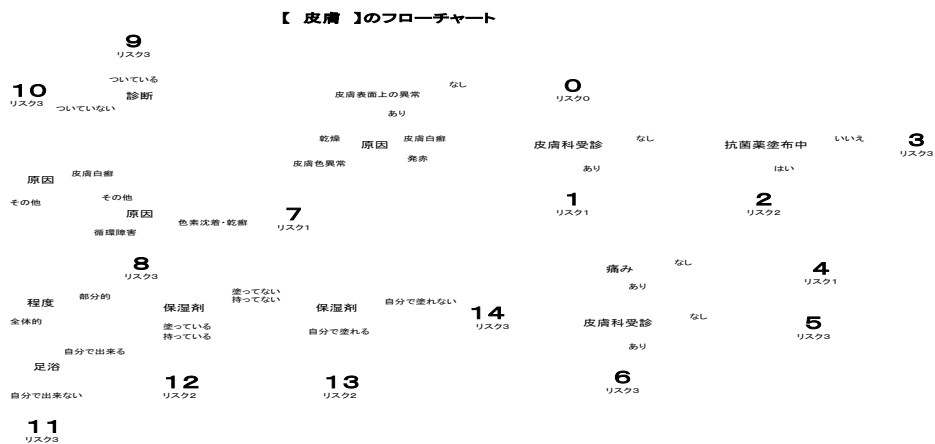


図 1

様		フットケアシート		
		2011/2/5		
		糖尿病あり	1	
		足潰瘍の既往なし	0	
項目	フロー・結果	A/P	リスク	
循環	6	足背動脈がかなり弱いことを伝え、間欠性跛行が出現してきたらすぐに伝える様話す。 備考:	2	
神経	6	進行した知覚神経障害の危険性。すぐに受診する必要があるため、医師に相談。毎日、自分で足に触れて、症状が悪化したり、しびれや感覚の鈍さを感じたら、すぐに相談することを説明する。 備考:	3	
外傷	8	様子見。次回足チェック時同部位に傷無いか確認。 備考:	3	
皮膚	異常なし	-	0	
	白癬	1	受診しているので様子見。透析中の靴下着用は必至。	1
	発赤	4	様子見でよいが、圧迫が原因であることが多いので、靴は緩やかなものを履く様指導。	1
	皮膚色	9	現在は様子見でよいが、変化見られたらDrに報告。	3
	乾燥	13	足浴後、保湿剤を塗布するように話す。	2
	胼胝 鶏眼	なし	-	0
		備考:		
爪	7	巻いている部分をニッパーで切り、爪の中の角質をゾンデで取り除く。 備考:	1	
リスク判定：3				
⇒次回のフットチェックは1ヶ月後です。				

図 2

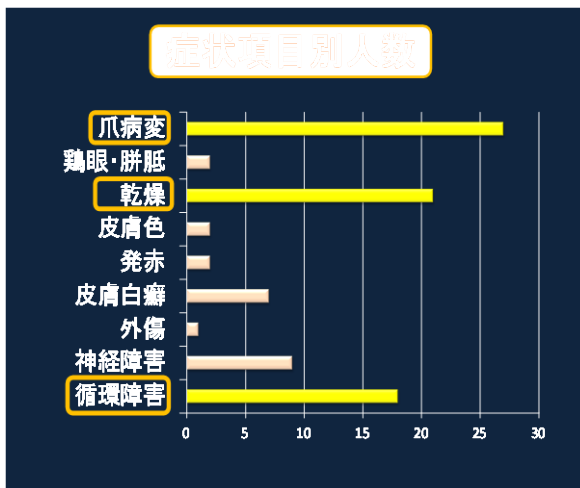


図 3

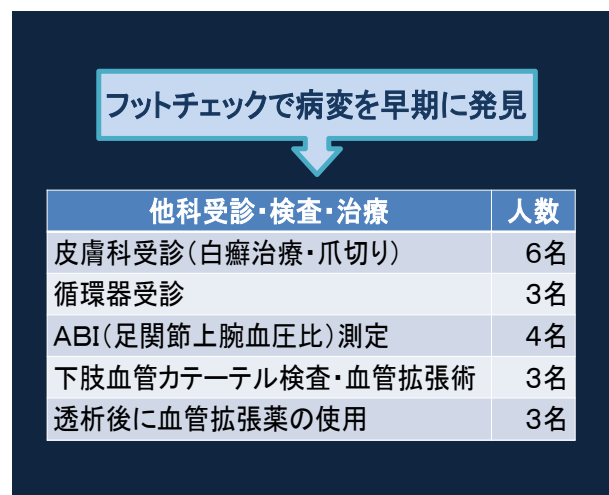


図 4